

困いをなくし、よいよい動きに

～大玉転がし練習～

10月10日（金）の1時間目、運動会の全校競技として、児童会で決定した種目『大玉転がし』の練習が運動場でありました。この大玉転がしは、運動場のトラック内に、スタート位置と、直線距離として約30メートル離れた地点に折り返しポイントを決め、各組ペアで大玉を転がし、交代して競い合います。

低学年ペアは、直線でポイントを往復するのですが、それ以上の学年では、周囲に置かれたコーンを通しながら往復するため、難易度も上がってきます。

前日の小運動会で競技をしたところ、最初に出発した低学年の交代位置で時間がかかっています。見ると、交代位置の直径1メートル程度の円に大玉をきちんと戻すことに戸惑っているようです。大玉が低学年の背丈くらいあり、さらに、大玉が完全な球体でなく、ボールの作りからも凹凸が残るため、所定の位置に静止させるのが難しいようです。

競技が終了後、教師の出番として、低学年については、ルールを柔軟に変更してもらうことにしました。

その後、担当の先生が、「赤白に分かれて、それぞれ作戦会議をしてください」と、子どもたちに投げかけます。子どもたちは団長を中心に集まり、話し始めました。できるだけ速く玉を転がすための玉の転がし方や、上手なコーンの回り方等のアイデアが、具体的に出されているようです。

しばらくして、「みんなで練習してみたら！」という一人の子の声をきっかけに、練習を始め出す組の姿があります。そして、上手にコーンを回っていたら、「いいよ！ いいよ！」と、友達に声をかけてあげる姿も見られます。

このように、速くゴールするための方法を、子どもたち自身が考え、意見を出し合ったり練習したりしながら、力を合わせてよりよいものにしていっています。



す。まさに、学校教育目標にある“自ら考え挑戦し ともに高め合う”姿に他なりません。

練習は、本番ぎりぎりまで続きます。“練習・見直し・よりよい動きに”と、本番の子どもたちの進化した姿をぜひご期待ください。

勝利をめざして～技も心も～

2時間目、低学年は、引き続き団体競技『わっしょいグルグル！』の練習を行いました。この競技は、竹2本の間に挟んで固定した平らな台の上に段ボールを乗せ、二人ペアで担ぎ、コーンを回って交代して競い合う競技です。段ボールを乗せると、さながらみこしを担いでいるように見えます。

おみこしが傾かないように、二人の息を合わせて上手に移動しないと、乗せた段ボールが落ちてしまいます。段ボールが落ちてしまった時には、その地点で止まり、おみこしに乗せてから移動し始めなければなりません。



小運動会では、乗せた段ボールが滑り落ちそうになり、子どもたちは、頭等の身体を使い止めようとしています。この競技は、慌てず急がざるを得なく、バランス感覚が求められます。そのため身体の一部を使って固定することは認められません。

どのように運べば速く走れるか、改めて各組に分かれて作戦会議です。どうやら走る順番を変更するアイデアやコーンの上手な回り方のアイデア等が出されているようです。その後、再び競技にチャレンジ。



このように、低学年の子どもたちも、自分たちで試行錯誤しながら、よりよい作戦を見つけ出そうとがんばっています。

このような練習の中、勝つことに対してこだわりが生まれてきます。当然勝負ですから、やっぱり誰もが勝ちたいもの。うまくできていない場面があると、友達への声かけが厳しくなってしまうこともあるようです。

すると、その後の作戦会議の中で、「声かけの言い方が嫌だった」「勝負に勝ったけど、うれしくなかった」等の思いをみんなで共有することもあるそうで、どのような声かけならば、仲間が勇気づけられるのかを考える大事な場ともなっています。

このように、運動会練習は、勝つための技を磨くだけではなく、心を磨く場ともなっているようです。